

零相変流器の平衡特性【漏電遮断器】

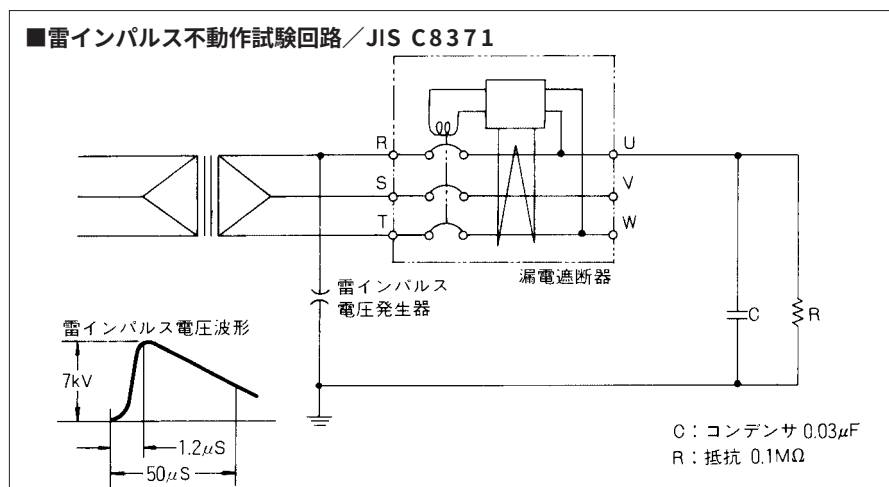
零相変流器の特性が悪い場合には、残留磁束の影響で遮断器が誤動作する場合があります。このようなことがないように、JIS C 8371では右表のように不動作の限界を定格電流の倍数で規定しています。テンパールの零相変流器は、いずれも表の数値以上の特性をもっておりますので誤動作はありません。

種 類	定格電流	試験電流
単相用	600A以下	定格電流の6倍(最小150A)
	600Aを超えるもの	定格電流から600を引いた値の2倍に3600を加えた値
三相用	50A以下	定格電流の8倍(最小150A)
	50Aを超え600A以下	定格電流の6倍(最小400A)
	600Aを超えるもの	定格電流から600を引いた値の2倍に3600を加えた値

(注) 電動機の△-△起動等過渡突入電流の特に大きな負荷には十分考慮する必要があります。

雷インパルス不動作性能(衝撃波不動作性能)【漏電遮断器】

全器種衝撃波不動作形です。雷や誘導負荷の開閉サージ等で誤動作をすることがないように、JIS規格で決められている7kV、 $1.2 \times 50 \mu s$ の雷インパルスに対し十分耐える性能をもっております。



インバータ回路への適用【漏電遮断器】

インバータ回路の電源側に漏電遮断器を設置した場合、インバータと負荷の間の電路及び負荷機器の対地静電容量をとおして図のような高周波漏えい電流が流れます。この高周波漏えい電流の大きさによっては機器の絶縁抵抗が正常であっても漏電遮断器が不要動作することがあります。インバータ回路には「インバータ対応形」の漏電遮断器をご使用ください。テンパールの漏電遮断器は標準品が「インバータ対応形」です。(但し、'91.2月以降の商品)
注.) 1.インバータの2次側には使用しないでください。

- 2.定格電流は、インバータ容量の約1.4倍を見込んでください。
- 3.完全電磁形は使用しないでください。

